

カリキュラム

機構施設名： 沖縄職業能力開発促進センター
 実施機関名： 合同会社瓦林総合研究室

A.バックオフィス	クラウド・IoT導入	経理業務の効率化につながるDXの実践
-----------	------------	--------------------

コースのねらい	法改正など経理分野を取り巻く環境の変化や、変化に対応する経理業務のデジタル化に向けた手法を理解し、自社に合ったシステムの導入方法を習得する。
---------	--

講義内容	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間 (H)
講義内容	1 経理業務の現状と課題	(1) 法改正など経理業務を取り巻く環境の変化の理解 税法や電子帳簿保存法などの法制度、外国為替や物価高などの経済面、テレワークやSDGsの普及などの社会面、DXなどの技術面など外部環境の変化を概観し、新たに対応すべき事項が増えていく経理業務を取り巻く現状をふまえ、その対応にはできるだけ効率的・迅速・正確に対応していくことが求められていることを解説・確認する。 【演習】 経理業務をとりまく外部環境・内部環境の変化について列挙・整理頂き、グループで共有、発表頂く。 (2) 手作業、データ散在、属人化 手作業による入力や集計などは正確性を損ねるリスクを生じ、データの散在はデータの有効利用を損ね、業務の属人化は知識継承や業務継続性を損ねる。加えてこれら問題は経理業務の非効率の原因となっていることを解説し、経理業務の課題の視点を提供する。 【演習】 自社の経理業務について、手作業、データ散在、属人化などの課題的視点で自己点検頂き、整理をする個人ワークを行い、その後グループで共有いただき、他社の視点を参考にして頂く。 (3) 経営上の問題点 月次損益計算書、セグメント別の売り上げ高推移など、管理会計上経営者が求めるレベルの高まりに届くことが経営の効率化に結びつくことを解説し、経理業務が経営に直結することを改めて認識頂く。加えて、効率化にあたっては経営層の考える課題の確認も必要であることを解説する。 【演習】 月次損益計算書・セグメント別売上高推移や利益率などがある場合とない場合とで、そして提供のタイミングの時期のずれが自社の経営にどのように影響してくるかを検討いただき、改めて月次決算の迅速化などの必要性を確認頂く。 (4) 経理業務のDX化の必要性 DXとは何か、なぜ日本でDXの推進が求められているかについて解説した後、前出の経理業務をとりまく現状をふまえ、法改正や経営者の要求レベルの高まりと、今後も変化に対し迅速な対応が必要となることから、その対応にDX導入が不可欠であることを解説する。	2.0
	2 業務を改善する手法と手順	(1) 目的と戦略の明確化 効率化の目的確認・目標設定・現状分析・課題抽出を行った後、優先度の高い課題から対応していく改善の流れの概要を紹介し、まずは業務の見直しを行うことの必要性について解説する。その上で取り組み領域を決定し、DX導入が含まれる場合にそれぞれの課題にあったDXツールを選定・模索していく手順を説明する。さらに、経理システムの導入が失敗している多くのケースで共通する点(導入メンバー間の人間関係、データ移行、利用者教育不足)について解説する。 【演習】 自社の経理業務へのDX推進の目的の言語化を個人ワークで行い、グループで共有頂く。 (2) 現状分析、課題の洗い出し 現状分析と課題の洗い出し・難易度設定までの下記手順を具体的に解説する。 ・現状分析と課題抽出 ・優先度設定 ・改善案の策定 ・難易度設定 【演習】 自社の課題抽出と優先度設定、あるべき姿の策定を行って頂き、グループ内でシェア頂き、発表頂く。適宜ポイントについて講師からアドバイスをを行う。 【演習】 自社の経理業務でのDX導入検討を行う対象業務・課題について検討頂き、グループでシェアを行う。 (3) ツール・システム等の理解(クラウド、会計ソフト、OCR・RPA) クラウドシステム、会計ソフト、OCR・RPA、AIツールなど経理業務の業務改善に寄与するIT・サービスについて経理のどの業務に適用するかを交えて紹介する。 【演習】 自社の経理業務関連のDXツールの導入状況を導入済システム整理シートに記入し、自社の状況を整理する。その後グループでシェアを行う。 (4) 導入するシステム等の決定 DX適用を行う課題について、どのツールを検討・選択すればよいかの検討の視点について解説する。 また、システム化にあたっては販売管理など周辺業務と連携したDXツールの検討など、経理業務のみの効率化だけでなく、全体最適の視点でDXツールを活用することや、さらには自社のみならず銀行など社外との連携を考慮する必要性を解説する。 【演習】 抽出した課題について、分析・検討を行い、どのDXツールの適用を検討していくかについての考察を個人ワーク・グループ共有で行っていただく。	2.0
	3 ツール・システムの導入(DXの実践)	(1) 業務における導入・活用事例 クラウドERPシステムによる周辺業務との統合、クラウド会計導入による効率化とテレワーク基盤の整備、RPAによる単純繰り返し業務の自動化、管理レポート作成用システムへの連携など、経理業務および関連業務の効率化に成功した事例と成功のポイントを紹介する。 (2) 導入手順例 優先度と難易度によりDX化対象の課題を決定後、具体的に導入するまでの下記手順について解説する。 ・要件定義 ・DXツールの選定(ベンダー説明・デモ・試用含む) ・利用者説明 ・データ移行 ・本番リリース ・(並行稼働) (3) 人材のスキルアップ 経理担当者がDXを推進していくために必要なスキルと、そのブラッシュアップの方法を無料コンテンツなどを使いながら行う方法を紹介する。 (4) 導入後の評価方法 DX導入の目的・目標の達成度合い、および経理システムに備えるべき正確性や迅速性などの観点から評価する手順について解説する。	2.0
合計時間			6.0

カリキュラム作成のポイント
 ・手作業、データ散財、属人化など経理業務の効率化をDXで実現するために実施すべき手順を初心者でもわかりやすく伝わる内容にしています
 ・訓練終了後に具体的アクションを実際にとることができるように、演習を多く取り入れました。
 ・自社の経理業務に適用できるDXツールを具体的にイメージがわくよう、事例やデモを豊富に交えています。